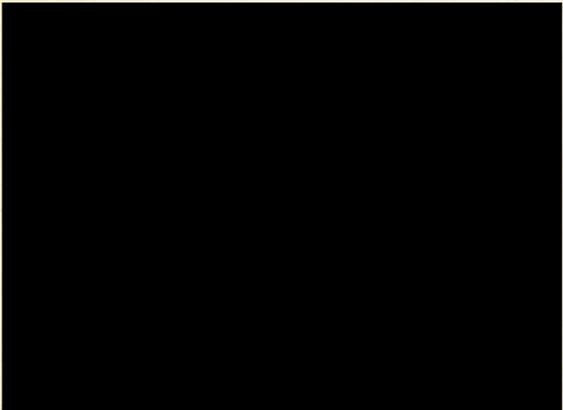
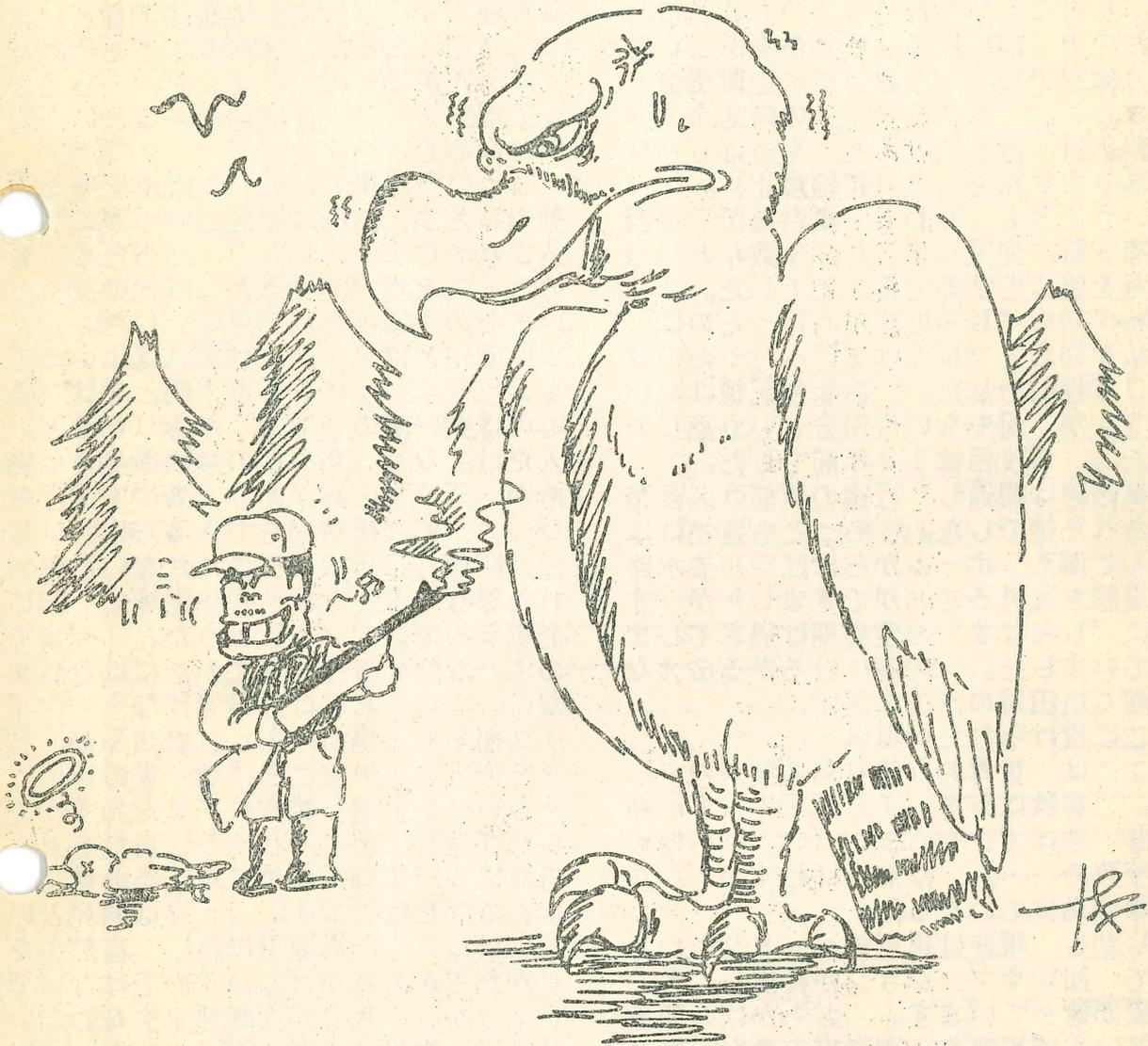


すずかども通信29

1984.12.



翔声

Today birds Tomorrow men. (明日は我身)

さる10月28日に千葉県野鳥の会と共催で「新浜のありし日を偲ぶ 探鳥会」が新浜3人娘のうちのお二人で会員の北本裕子 古川純子さん(いずれも旧姓)の案内で行なわれました。

鳥を見るのではなく 鳥を見たコースを歩こうという催しでしたので 総武線の本八幡駅か新小岩駅で集合して バスで“しんはま”へ行こうということになったので 前に探鳥会の集合場所とした本八幡駅でなく 今回は新小岩駅集合としました。ところがバスの時刻を調べに新小岩へ行ってみると やっぱりバスはありませんでした(路線廃止)。

ということで あわてて集合場所を東西線浦安駅に変更しました。十数年という年月を感じさせるできごとでした。

私が初め“しんはま”へ行ったのは私が初めて“しんはま”へ行ったのは20年程前でした。あまり記憶はないのですが 何もない片田舎という感じでした。2度目は13年前でした。

東西線は開通し 行徳の駅前は区画整理された後でした。もっとも建物はほとんど無く ホームからは江戸川放水路の堤防さえ見ることができましたが すでに“しんはま”の全盛期は過ぎてしまっていました。内湾にひろがる広大な干潟 塩田跡の水田 蓮田。そこに設けられた御獵場……

ここは 世界的な渡り鳥の渡来地でした。春秋はシギ チドリ、そして小鳥たち 冬はガンやカモ。(いずれも極めて多数の……) なかにはわずかしか訪れない鳥達もいました。

しかし 現在は東京のベッドタウンとして 団地やマンションが林立し 多くの家が建っています。おもかげの残る処といえは観音舎 御獵場を含む一帯と妙典の湿地しかありません。

ここ行徳が開発の波に洗われるのは 時間の問題だったのかもしれませんが。首都圏の住宅地は 西と南を中心に広がって行きました。東は総武線沿いでし

た。行徳はさらにバスで20~30分もかかるところでした。それが行徳の開発を遅らせていました。

ところが 総武線のバイパスとしてできた東西線の出現は 事情を一変させてしまいました。都心からわずか30分です。それまでの通勤時間が1時間から1時間半もかかったことを考えると貴重な存在です。しかも地盤沈下などにより 水田はおろか 蓮田としても使えなくなった農地も出てきました。したがって埋立をして 住宅地化するという方向となるわけです。

こういう環境で行われた新浜を守る運動でしたが 結局は開発という波に吞まれてしまいました。あらためて昔のコースを歩いて見ると 時代の流れというものを知らされる思いでした。

住宅地とは 住宅だけあればよいのでしょうか。小さな都市公園と呼ばれるものは狭い庭の一部でしかありません。人だけでなく 鳥や他の生物が生きる場所が 草や木の縁があり 鳥や虫達が飛び 人工的な構造物をできるだけ除外した。昭和40年代は役に立たないと思われた様な そんな場所が住宅地の一部に必要なのではないのでしょうか。今までのような開発優先の考えかたにはなじまない 小供たちには危険を伴なう マイナス面もある場所かもしれないが 私たち大人の小さなころには 家の近所にそういった空地 雑木林がまだわずかでしたが有り そこで私たちは自然を身自然につつまれて自然に対する心構えを学んできたはずで。人々は開発という けっこうな御題目の為に 自然のありがたさを忘れかけているのではないのでしょうか。我々が人間性を失なわないために 本当は必要な空間ではないのでしょうか。

一見 無駄とも思える土地が 実は貴重なものだと思います。そのような未来につながる空間をこれ以上失なわないようにしたいものです。

(寺田 一哉)

端音

〇夏鳥 冬鳥交代のシーズン

繁殖を終え 南国へ渡去した夏鳥と入れ代わりに 冬鳥達がここ長野県佐久市内へ渡来しはじめました。夏鳥終認日 冬鳥初認日(83 84年の記録)を別紙にまとめてみましたので 参考してください。

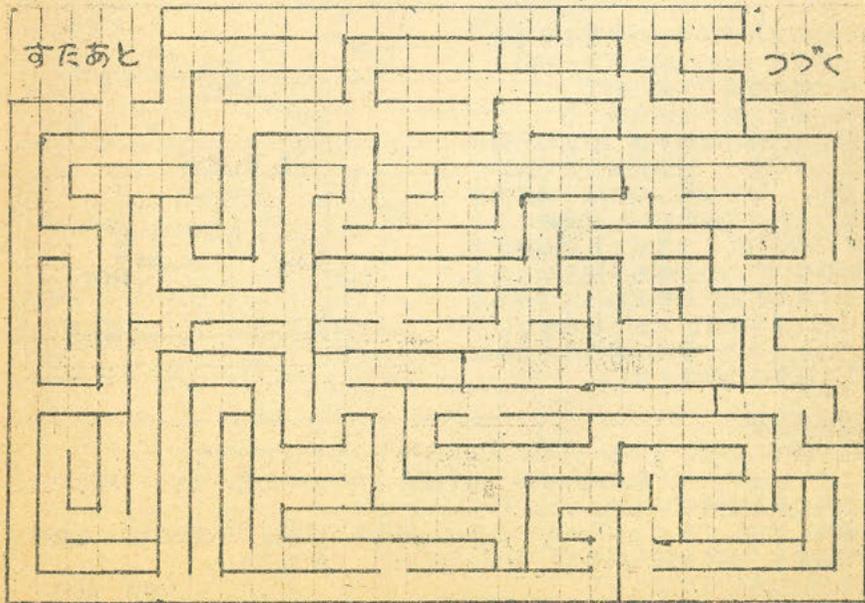
ホームグラウンドでのカモ類初認日は 9月18日 オナガガモ ヒドリガモ マガモなどです。10月28日 久しぶりにホームグラウンドにて確認したカモ類は マガモ ヒドリガモ オナガガモ コガモ キンクロハジロ スズガモ など6種です。個体数の多いのはマガモ ヒドリガモで キンクロハジロ スズガモ コガモなどは少数。

来月15日からの狩猟解禁と同時に カモ達は安全な場所を求めて飛去ってしまい 来年3月下旬まで姿が見られません。留鳥を始めとする野鳥達が安心して住める場所は 我々人間が作ってやるしかないので。長旅の疲れを回復させている 冬鳥達を温かい心で見守りたいと思います。(59. 10. 29)

夏鳥終認	84年	83年
1 アカモズ	10/9	10/10
2 イワツバメ	10/7	10/9
3 オオヨシキリ	9/23	9/20
4 カッコウ	9/30	10/1
5 クロツグミ	9/23	9/19
6 コムクドリ	10/12	9/27
7 コヨシキリ	9/23	9/19
8 ササゴイ	10/6(声)	10/2(声)
9 ツバメ	10/5	10/2
10 ヨシゴイ	9/23	10/16
11 アジサシ	10/28	10/1

冬鳥初認	84年	83年
1 カシラダカ	10/28	10/16
2 シメ	10/11	10/12
3 ジョウビタキ	10/27(声)	9/19(声)
4 タヒバリ	10/26	11/3
5 ツグミ	10/12(声)	10/13(声)
6 ハクセキレイ	9/30	9/25
7 ウグイス(梅鳴)	10/27	11/3

以上御参考まで



鳥の国から

一観察舎便り一

木枯しに吹かれて ススキやセイタカアワダチソウの種子が きらきら輝きながら飛んでゆきます。木々はすっかり葉を落し 本土のアシ原も黄色く枯れてあたりはすっかり冬の景色になりました。

12月8日には初氷。
珍らしいお客さんが次々に現われて今のところスズガモもいっぱいいるし言うことなし。(でも去年は12月11日に大群が消えてしまったのだ……)ヒヤヒヤしているこのごろです。

○10月21日 オオハシシギ1羽 若鳥と思われ。以来ずっと滞在しているらしく 時々姿を見せている。

11月下旬には完全な冬羽に変わっていた。12月4日にもいた。

○10月21日 ツルクイナ若鳥死体1拾得。観察舎開設以来 記念すべき200種目。詳細は資料編に。

○11月3日 午後1時35分アカツクシガモ3羽飛来 同3時に飛び去る。
○11月29日 ウソの死体(古)拾得。ご獵場のへりです。

例年と同じくウミネコが11月いっぱいであらかた姿を消し セグロカモメに変わりました。オオセグロカモメ(10月29日初認) シロカモメ(12月4日 若鳥1羽初認)が比較的早く現われています。谷津干潟に飛来した4羽のズグロカモメのうち1羽が釣針を飲んで保護され 現在入院中。

何と野鳥病院にはカモメが5種類も。(セグロカモメ1羽 ウミネコ1羽 ミツユビカモメ1羽 ユリカモメ4羽 ズグロカモメ1羽) 何羽かは近々放鳥できる予定。スズガモの飛立ちは17時10分~40分ころ 飛来は5時40分~6時10分ころ(たぶん)。

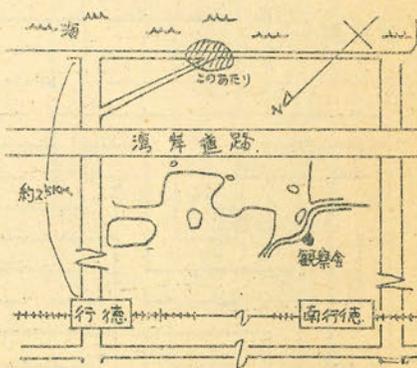
みごとですよ。ただし夕刻はもう暗いので観察舎まへ または湾岸道路へり外では見えません。(運尾 純子)

一休館のお知らせ一

観察舎は 12月28日から1月3日まで 休館となります。
1月1日は運尾さんのご好意により 午前6時より9時頃まで 開けて頂けます。

○初日の出とスズガモの帰還を見る会

1月1日(火) 午前5時半~8時
集合; 塩浜海岸 午前5時半
解散; 観察舎前 午前8時ころ
案内; 東西線行徳駅下車 駅前の大通りをまっすぐ南へ 徒歩約35分で海岸に出ます。車でお越しの方は 湾岸道路千鳥の交差点を海の方へ 京葉線にそってすぐ斜め右につきあたりが海岸です。
新春恒例のこの行事も9回となります。84年はお天気にも恵まれ スズガモの入りも ますます。さて85年はいかがでしょうか? 夜明け前の冷え込みに備えて防寒の仕度は十分に。



一編集員募集一

私が編集に参加してから 二年 12号を救えようとしています。そこで 紙面の充実と刷新のために 編集員をつりたいと思います。特にジュニア会員の参加を希望します。
編集に参加してみようかな~という方は 毎月第二日曜日 午後3時半から観察舎二階図書室で編集会議を開きたいと思いますので ご参加下さい。
(難かしい事は有りません) (新妻 途夫)

一野鳥紳士録一

No.7

○オナガガモ 風も冷たさを増し 保護区のアシ原も黄金色に変わりました。冬冬を彩るカモ達の中から 今回はオナガガモについて。

漢字では「尾長鴨」。中国語でも「針尾鴨」というそうです。英名は「Pintail」。これもピンのような細長い尾から来ています。

学名は「Anas acuta」。属名のAnasはラテン語のanas(カモ)から来ています。種小名のacutaはラテン語で やはり尾の尖ったことを示しています。

オナガガモといえば上野の不忍池が有名ですが 以前は割合に珍しいカモだったそうです。オナガガモは雄も雌も体つきに独特の特徴があり 見慣れてくると雌でも他のカモと比較的容易に識別できます。色彩的にも地味で数も多いのであまり注目されることもないかも知れませんが 雄のあの長く伸びた尾は他のカモには見られない特徴です。

色彩の美しさから形態の優美さという風に見かたを変えると つい見過しがちなオナガガモでも新鮮に見えてきます。

今までと少し視点を変えて見ると 見慣れた鳥達にもまた違った輝きを見出せるものです。

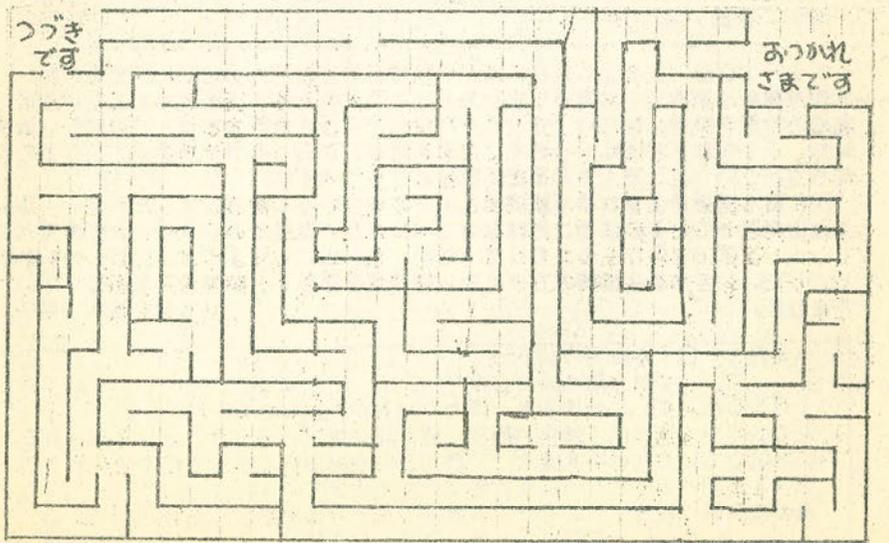
○セイタカシギ 彼に初めて会ったのは春まだ浅い北池でした。少し西に傾きかけた陽を受けて盛んに春のしずくを浴びていました。

漢字では「背高鷄」。英名は「Black-winged Stilt」。stiltは竹馬のことです。赤くスラッと伸びた脚がまるで竹馬に乗っているように見えたからでしょう。

学名は「Himantopus himantopus」。属名のHimantopusはギリシャ語の himantos(皮ひも) + pous(足)が語源で「皮ひものような足」という意味です。セイタカシギの学名は反復名称で種小名も同じ意味です。

この前の冬 雪の保護区でじっと寒さを避けていたセイタカシギ 泥に汚れて観察舎に保護されたセイタカシギ。今年の冬もまた寒さ厳しい冬になるのでしょうか。無事に冬を乗り切ってまた鴨場でヒナを育ててほしいものです。木枯しの中 リンと立つセイタカシギ その姿をぜひ見にきてください。

寒くなつてまいりましたので 会員の皆様も御身体に気をつけて 良き新年をお迎え下さい。(荒井 八太)



昭和59年11月7日

市川市長 高橋国雄様

鈴木有方
行徳野鳥観察舎友の会
代表 梶谷 栄

区東 十青 番

拝啓、日頃より市政に御尽力いただきありがとうございます。さて、行徳妙典地区の区画整備が近く実施される旨、新聞等で承っております。地下鉄東西線の新駅開業も近く、同地区の一層の発展が望めること、お喜び申し上げます。
つきましては、同地区の緑地や公園計画に地域の特性を生かし、水に親しむことができるものをお考えいただきたく、ここに書面をもって陳情いたします。
妙典地区は行徳の昔の面影を今に残している最後の地域でした。蓮田等の耕作地を今日まで守ってこられた地元の方々の御苦労は筆舌に尽くしがたいものと思っております。一方、沼や用水路では数多くの人々が釣りや興じ、子供たちがザリガニやおたまじゃくしをとり、また鳥もさかす果をつくり餌を漁っておりました。近代都市化の中にもこうしたふるさとの面影を残し、市民に水とのふれあいの場を提供することは、他の自治体にも数少ない有益な試みではないでしょうか。水を扱った公園づくりには困難な問題も多いかと存じますが、既にじゅんさい池や大町自然公園などの実績をもつ市川市であればこそこうした蓮田や池を保存あるいは造成し、他市に誇るべき親水公園を育成して下さることを信じて希望いたします。

11月10日 友の会の梶谷代表が 陳情書を市役所へ提出しに行きました。都市部長に手渡し お願いしましたところ「公園を作る計画はもとよりあるので友の会の案を参考にしたい。できるだけ意向にそうよう努力する」との頼しい返事した。しかし「方法は一旦砂で 全面を埋めてから もう一度造成することになるだろう」ということで まだまだ問題はありそうです。
次に農水産課が含まれる 経済部長にも お会いして手渡しましたところ 蓮田が「蓮田が残っているのはここだけなので 残したいと思っている。大町の方へ持っていくって 蓮田を保存するつもりだったが こちらにも残すよう度力したい」とのことでした。各市議会議員の方々にも 挨拶状を添えてこの陳情書を配布していただきました。(文責 鈴木 裕子)

-1月15日 冬鳥カウンター
ご協力願えませんか？
1月15日(祝)に全国冬鳥一斉カウントが行なわれます。
友の会でも 保護区「妙典 原木 浦安埋立地」で冬鳥のカウントを行います。
いつも眺めているだけの鳥達を、「数」という面から見直してみませんか？
スズメ1羽 ムクドリ1羽が大きく見えてきます。
友の会々員に限らず どなたでも興味のある方は御参加ください。
お問い合わせは 東 [] まで。

11月20日 勤労福祉センター大会議室で 妙典地区その他の市街化調整区域指定関係の公聴会が開かれました。

- 友の会からは 田久保晴孝氏が公述人として意見をのべました。
都市計画の決定手続は 次のように行なわれるそうです。
- 1 知事の都市計画の素案
 - 2 公聴会 住民の意見の反映
 - 3 知事の都市計画の原案
 - 4 公告 及び案の縦覧(2週間) 市町村の審議会などの意見をまとめる。
 - 5 住民 市町村の意見 意見書の提出
 - 6 県都市計画 地方審議会
 - 7 建設大臣の認可
 - 8 都市計画の決定告示

以上の手続の中で公聴会である訳で これからも妙典地区については 働きかけていく必要があります。

公聴会は公述人のみが発言できるので 傍聴人は質問その他発言することはできません。公述人は6名で1人辞退したので5名でした。

5名のうち2名は 自分の持っている土地も 調整区域からはずして市街化してほしい。という個人的なものでしたが 他3名のうち友の会の田久保さんは 妙典の芦原や蓮田は首都圏に残された貴重な湿地帯であるので 市街化されるのであれば 湿地を残した公園なりとも作って ぜひこの貴重な自然を残してほしいと訴えました。次の小沢氏は北國分について 意欲的に農業に取組んでいるので 地主達も反対している優良な農地を市街化する必要はない 等々で市街化には反対。

最後の藤原氏も 妙典地区が市街化されると ますます行徳地区が人口過密になって 東西線の混雑化や 公共設備が追いつかないことなど 問題がある。又都市の

中のオープンスペースとして 妙典が果してきた役割は大きく 市街化すべきでない。又福栄3丁目は市街化編入が決まった訳でも無いのに ライオンズマンションが建ってしまったのは やはり問題がある。等市街化に反対でした。この様に市街化反対の声が強かった公聴会でした。

これらの意見がこれからの都市計画にどの様に反映されてゆくのか 今後も私たちは 見守って行く必要があると思います。(文責 鈴木 裕子)

-野鳥観察舎前の水路の浚渫工事について-
観察舎まへの水路の工事については 前号に掲載したような意見書を企業庁に提出して 環境浄化や自然保護を重視してほしいと 要望してきましたが 工事も真近に迫ったので 工事についての説明会を 急ぎ12月8日(土)に野鳥観察舎で開いていただきました。急に決まったことでもあり 会員の方全員にあらかじめお知らせできなかったことは残念ですが 友の会有志と観察舎裏のカモメ自治会の方 塩浜団地の方等が出席して 企業庁葛南土木事務所の方から工事の方法 規模などについて説明がありました。

詳しい内容については 次号でお知らせしますが 工事の規模は当初心配していたような大規模なものではなく 水路の中央を巾1.0m 深さ50cm浚渫する程度のもので自然保護にも充分留意して下さり 友の会や地域住民からの要望にも できるだけ応えるとのことでした。来年1~3月に今年度分の工事として 塩浜橋から行徳高校脇までの水路が浚渫されます。来年度分の工事については あらめて時期などについての要望を出したいと思っております。

説明を聞いてホッとしたと同時に この行徳保護区の貴重な自然というのは 今まで考えていたよりもずっと一般に認められているものなのだ ということに改めて感じました。この貴重な自然をただ保存し残していくだけではなく 昔のような もっと良い自然環境に少しでも近づけるよう改善してゆく努力を続けたいものです。

7月の鳥の記録 1984

8月の鳥の記録 1984

種名	記録日数	最高数	最高数記録日
カイツブリ	11	1	7/28 夜
カワウ	26	50+	7/1 18:00 後池
ヨシゴイ	4 ⁺	1	環水池, UFO島
ゴイサギ	29	12	7/4
ダイサギ	31	40	7/31 青洲?
チュウサギ	2	3	7/29, 1回 7/28
コサギ	31	51	7/9
アオサギ	24	27	7/25
マガモ	4	1	3, マガモ?
カルガモ	31	128	7/31 水路ウギクマ
コガモ	1	1	7/31 初認?
オナガガモ	11	4	7/8-20-21
スズガモ	27	28	7/23
ミサゴ	4	1	7/11-16-17-30 初認
キジ	12 ⁺	7	7/20 7/4, 8/1 回2
ヒクイナ	1	1	7/26 環水池方向で声
バン	29	8+	7/9 1回
オオバン	1 ⁺	1	鴨場心亭池
コナドリ	28	39	7/23
シロナドリ	29	45	7/31
メダイドリ	16	25	7/31 初認 7/24
ダイゼン	18	13	7/31
キョウジョギ	3	4	7/31 初認 7/13
トウネン	8	19	7/28 初認 7/13
サルハシギ	1	1	7/30 若? 初認
アオアシギ	17	7	7/28
タカブシギ	4 ⁺	13	7/31 初認 7/13
キアシシギ	10	39	7/31
イソシギ	31	11	7/10
ソリハシギ	29	7	7/3-10-28
オグロシギ	5	11	7/29 初認? 7/13
チュウサギ	19	4	7/7
セウカシギ	2 ⁺	2	7/2-4
ウミネコ	31	464	7/25
コアジサシ	31	141	7/31
ドバト	27	19	7/12
キジバト	26	1+	
ヒバリ	2 ⁺		
ツバメ	27	5+	7/2
ハクセキレイ	10 ⁺	2	7/28

種名	記録日数	最高数	最高数記録日
ヒヨドリ	11		業村はこが
ウグイス	2 ⁺		7/27 鴨場でSong
オオヨシキリ	20		
セッカ	8 ⁺		
メジロ	1	1	旧館南で声 7/31
カワラヒワ	10		
スズメ	27	9	7/28
ムクドリ	17		
オナガ	6 ⁺		鴨場-水路-セウカ林
ハシボソガラス	1 ⁺	3	7/4
ベニスズメ	1	1	本土 7/4
合計 57種	31		

本種的な夏を迎えたというのに、鳥の世界ではもう秋の気配がはじまっています。鴨場で繁殖したサギたちが出てきて、干潟が少しにまぼろしになりました。月末に多く見られたのは、青洲の影響がもしありません。アオサギは越冬個体に加えて、もう数が増えはじめました。オナガガモ、スズガモは、越冬中の残留個体でしょう。

2ヶ月ぶりに猛禽類が現れました。ミサゴは、昨年10月24日以来の出現です。ヒクイナが、ゴウジで声を聞かせてくれたもつ。たった1回のみ。定着はまだ望めないが!

早くもメダイドリ、キョウジョギ、トウネン、タカブシギ等の初認。越冬したダイゼン、アオアシギ、キアシシギ、近くで繁殖したコナドリ、シロナドリ、コアジサシも数を増しています。ウミネコは数が急増。オオヨシキリの鳴りが同半は少し少なくなる。キジ、バン、カルガモ、ハクセキレイでは、ヒナあふりは若鳥が見られています。マガモは、ナキアヒルの可能性もあり。ウグイスとメジロは、おごぬけの可能性もある。

(まじめ 百類)

種名	記録日数	最高数	最高数記録日
カイツブリ	11	4	7/28 新築水池 Ad 1, 2, 3
カワウ	26	76	7/28
ヨシゴイ	4 ⁺	1	北池, 大泉閣三角
ゴイサギ	26	8	7/27
ダイサギ	29	46	7/1
チュウサギ	7	6	7/9 北池
コサギ	28	24	7/9
アオサギ	29	52	7/6
マガモ?	1	1	7/1 31
カルガモ	29	100	7/31 水路でけり
ガモ	1	2	7/26 初認?
オナガガモ	3 ⁺	1	
ハシボソガモ	1	1	7/4 初認?
スズガモ	26	42	7/22
ミサゴ	1	1	7/25
トビ	2	1	初認 7/25, 7/25
チュウビ	2	1	初認 7/25, 7/26, 7/26
ハヤブサ	1	1	初認 7/25 幼鳥
キョウゲンボウ	1	1	初認 7/25
キジ	6 ⁺	4	7/1 若鳥づれ
ヒクイナ	1	1	7/1 本土
バン	20	4	7/1 Ad 2 回2
コナドリ	27	69	7/6
シロナドリ	28	75	7/4-27
メダイドリ	28	105	7/9
アナグロ	5	2	初認 7/4 2回
ダイゼン	29	23	7/6
キョウジョギ	26	21	7/14
トウネン	25	56	7/9
ヒバリシギ	2	1	7/23-24
ハマシギ	1 ⁺	2	7/20 初認 7/9
オバシギ	5	2	7/23-29 初認 7/13
アオアシギ	28	19	7/6
タカブシギ	8 ⁺	2	7/4
キアシシギ	30	213	7/9
イソシギ	19	5	7/23
ソリハシギ	26	50+	7/22
オグロシギ	13	103	7/8-9
オソリハシギ	6 ⁺	4	7/7 初認 7/24

種名	記録日数	最高数	最高数記録日
ダイシャクシギ	5	1	初認 7/25
チュウサギ	9	2	7/5
ユリカモメ	1	1	初認 7/7
ウミネコ	30	500+	7/5
アジサシ	3	24	7/22 初認 7/17 3回
コアジサシ	28	37	7/1
ドバト	25	28	7/9
キジバト	17		
ヒバリ	1 ⁺		
ツバメ	17	6	7/4
ハクセキレイ	19	4	7/12
ヒヨドリ	5 ⁺		幼鳥色も
オオヨシキリ	6 ⁺		終認 7/9
セッカ	7 ⁺		
ホオジロ	1		7/29 初認? / 2回 Song
カワラヒワ	2 ⁺		
スズメ	20	5+	7/4
ムクドリ	5		
オナガ	4 ⁺		
ハシボソガラス	7	2	
ハシブトガラス	3		初認? 7/4 1回
クロトキ	1	2	7/31 7/20より観察
セキセイインコ	1	1	7/4 ナル
合計 62種	30		

渡りの季節を迎えて、秋の初認が相次ぎました。ワシタカ類は冬の常産がほぼ減り、シギナドリ類が種類・数とも増加しています。その結果、出現種の合計は7月よりも11種増。スズメ目の鳥たち(小鳥?)の渡りは、来月以降になるでしょう。

コガモは、7月31日以後の出現。7月/13日はレギュラー? オグロシギ103羽の大群は、近年めったに見られるものではありません。当日の来館者がうらやましい!! ホオジロはおごぬけの可能性あり。ハシブトガラスは2ヶ月ぶりの出現です。

クロトキ、セキセイインコはおごぬけ(前号参照)。(まじめ 百類)

9月の鳥の記録 1984

種名	記録日数	最高数	最高数記録日	備考
カイツブリ	3 ¹	4	9/23	
カワウ	25	87	9/24	
ヨシゴイ	1	1	9/15 社	
ゴイサギ	23	12	9/7	
アマサギ	2	3	9/27	9/20は?
ダイサギ	25	20	9/23	
チュウサギ	3	3	9/7	
コサギ	25	30	9/23	
アオサギ	25	68	9/2	
カルガモ	25	29	9/23	
コガモ	19 ¹	104	9/14	
ヨシガモ	1	1	初認 9/27	
ヒドリガモ	14	16	9/27 初認 9/6 鴨場	
オナガガモ	9	83	9/9	
シマアジ	2	1	9/15, 22 初認 9/6 早型	
ハシビロガモ	4	8	9/23	
ホシハジロ	1	1	初認 9/6 ♂	
スズガモ	25	84	9/29	
ミサゴ	1	1	9/1	
トビ	6	1	1	
オオタカ	1	2	9/1 ♀ 早型 + ♂	
チュウヒ	2	1	9/1, 30 早型	
ハヤブサ	1	1	9/1	
チュウゲンボウ	3 ¹²	3	9/2	
キジ	7 ¹²	2		
ハシ	17 ¹¹	2	9/1 鴨場 鴨場 鴨場	
オオバン	1 ¹	1	9/4 鴨場	
コチドリ	20	22	9/23	
シロチドリ	24	121	9/7	
メダイチドリ	21	19	9/7	
ムナグロ	14	7	9/9	
タイゼン	22	10	9/7	
キョウジョシギ	9	3	9/27 終認 9/6	
トウネン	8	3	9/7	
オバシギ	2	1	9/6, 10 終認 9/6	
キリアイ	3	1	9/3, 8, 9	
コアオアシギ	1	2	9/7	
アオアシギ	24	20	9/2	
タカアシギ	18	20	9/1	
キアシギ	14	6	9/7 終認 9/6	

種名	記録日数	最高数	最高数記録日	備考
イソシギ	20 ¹	4	9/7	
ソリハシシギ	23	25	9/20	
オグロシギ	4	3	9/8	
オソソハシシギ	4	9	9/8	
ダイシャクシギ	15	2	終認 9/24	
ホウロクシギ	2	1	9/6, 9	
チュウシャクシギ	3 ¹	1	終認 9/24	
タシギ?	1	3	9/20 (初認)	
オオジシギ	1	3	9/1 鴨場 鴨場	
セイタカシギ	7	7	9/23 鴨場	
ユリカモメ	2	5		
ウミネコ	25	412	9/2	
アジサシ	1	2+	9/2	
ユアジサシ	17	2	終認 9/22	
ドバト	26	32	9/1	
キジバト	17			
ミタカ	1	1	9/16 鴨場 上座	
ヒバリ	3			
ウグイス	1	2+	本土	
ツバメ	16	16+	9/7	
ハクセキレイ	17 ¹¹	7	9/2 鴨場 鴨場 鴨場	
ヒヨドリ	4 ¹¹		9/1 鴨場 鴨場 鴨場	
モズ	3 ¹⁵		初認 9/15 鴨場	
ノビタキ	1 ¹¹	2	9/15 社, 9/20	
セツカ	7 ¹²		9/15 社, 9/20	
キビタキ	1	1	9/23 鴨場 鴨場	
エナガ	11	3	初認 9/1 水路 鴨場	
カウラヒワ	2 ¹⁵			
スズメ	19			
ムクドリ	4 ¹²			
オナガ	2 ¹²			
ハシボソガラス	10 ¹¹			
ハシブトガラス	3 ¹			
セキセイインコ	1 ¹¹		9/7 黄色, 9/20 ブルー	
ベニスズメ	5 ¹³	4	9/2 新築が, 芝生 9/16	
合計 27種	26			

カモ類が相次いで初認、代ってシギ類が
続々と終認。カバノボシが少く変わっています。
エナガは保護区では初記録です。(百瀬)

10月の鳥の記録 1984

種名	記録日数	最高数	最高数記録日	備考
カイツブリ	3 ¹³	6	10/4	
カワウ	28	330+	10/27	
ヨシゴイ	1	1	10/7 終認 社	
ゴイサギ	26	26	10/26	
ダイサギ	27	14	10/7	
チュウサギ	1	1	10/4 終認	
コサギ	27	9	10/4, 10	
アオサギ	27	47	10/2	
オシドリ	1	1	10/4	
マガモ	12	47	10/26	
カルガモ	27	36	10/26	
コガモ	27	157	10/2	
トモエガモ	2	1	10/21, 26 初認 10/16 鴨場	
オカヨシガモ	3	9	10/26 初認 10/16 鴨場	
ヒドリガモ	21	768	10/2	
アメリカヒドリ	3	1	初認 10/2 全社	
シマアジ	1	1	初認 10/2	
オナガガモ	26	80	10/26	
ハシビロガモ	9	8	10/26	
ホシハジロ	17	78	10/1	
キンクロハジロ	11	27	10/18 初認 10/8 鴨場	
スズガモ	28	1000+	10/2	
ミサゴ	19	2		
トビ	11	5	10/21	
チュウヒ	13	3	10/21	
チュウゲンボウ	1	1	10/5	
キジ	7 ¹³	2		
ハシ	20 ¹²	2		
コチドリ	5 ¹¹	8	9/1 終認 10/1	
シロチドリ	25	30	9/7	
メダイチドリ	6	5	10/9 終認 10/4	
タイゼン	20	5	10/1	
タカアシギ	1	1	10/1 初認	
トウネン	1	1	10/2 終認	
ハマシギ	13	62	10/1	
オオハシシギ	2 ¹	1	10/21 初認	
アオハシシギ	24 ¹¹	22	10/1	
タカアシギ	6	2	10/4 終認 10/21	
イソシギ	9	1		
ソリハシシギ	10	6	10/4	

種名	記録日数	最高数	最高数記録日	備考
オソソハシシギ	8	5	10/2	
タカアシギ	2 ¹³	1	初認 10/2 鴨場	
セイタカシギ	2 ¹³	18	10/4 北地	
ユリカモメ	17	80+	10/21 面ハ 鴨場	
セウロカモメ	19	6	10/29 初認 10/16 鴨場	
オオセウロカモメ	1	1	10/29 初認 鴨場	
ウミネコ	28	537+	10/3	
アジサシ	1	1	10/4 終認	
ドバト	27	40+	10/1	
キジバト	17 ¹¹	4+	本土	
カワセキ	1	1	10/26 初認	
ヒバリ	5 ¹¹	3	10/23	
ツバメ	1 ¹³	5	10/28 終認 10/28	
ハクセキレイ	16 ¹²	2		
セウロセキレイ	2	1	10/6, 26 上座	
ヒヨドリ	17 ¹²	12+	10/31 小群 鴨場	
モズ	11 ¹⁴			
シロビタキ	4	5+	10/26 初認 10/26	
ノビタキ	1	1	10/1 社 終認	
セツカ	1	1	10/1 社	
エナガ	15	6+	10/5 鴨場 水路 鴨場	
シロウカラ	1	2	10/30 初認 鴨場	
ムクドリ	1		10/1 初認 鴨場	
ホオジロ	3 ¹¹			
アオジ	4 ¹¹		初認 10/8 水路	
オオムシクシ	1		初認 10/28 鴨場	
カウラヒワ	3 ¹¹			
スズメ	21 ¹¹			
ムクドリ	9 ¹¹			
オナガ	3 ¹²			
ハシボソガラス	10	2		
ハシブトガラス	2			
カラス SP	2	17	10/6	
ベニスズメ	16 ¹²	2	本土 水路	
合計 73種	30			

久しぶりにオオハシシギが現れ、話題になっ
ています。ツバメも、最後の夏鳥が帰って
きました。カウラヒワ、カモ、カメ、小鳥たち。
冬、冬の顔が水が、冬ももうすぐです。(川)

行 事 案 内

○定例 新浜探鳥会 (毎月第二日曜日)
 1月13日 2月10日 3月10日
 行徳にわずか残された妙典の蓮田 江戸川放水路を観察し 午後は観察舎に回ります。昼食は江戸川の土手で。約6kmほど歩きます。歩きやすい服装はきもので。昼食 飲物 帽子 雨具などお忘れなく。(防寒の用意も)
 集合; 東西線行徳駅前 午前10時
 解散; 行徳野鳥観察舎 午後2時半頃
 担当 田久保晴孝 東 良一

○定例 園内観察会 (毎月第一 三日曜)
 12/16 1/6 1/20 2/3
 集合; 観察舎前 午後1時半
 解散; " " 午後4時半頃
 担当 観察舎運尾 共賛 友の会
 園内の観察路を約3.5kmほど歩きます。普段見られない保護区の奥や北池は どんな鳥に会えるでしょうか。歩きやすい はきもの 服装でどうぞ。(防寒の用意を忘れずに 雨天中止)

◎歳末スライド会
 12月23日(日) 午後2時~4時
 会場; 観察舎1階視聴覚室
 皆さんの秘蔵の作品や傑作を自慢し合い けなし合い 楽しくやりたいと思います。出品される方は 前日までに内要を 観察舎運尾まで。

◎忘年会とクリスマスイブのイブ
 12月23日(日) 午後5時~7時
 スライド会の後で 紅茶とケーキなど 囲みながら 楽しくおしゃべりしようという会です。約50人もの大人子供が集まります。

◎初日の出とスズガモの帰還を見る会
 1月1日(火) 別掲

◎スズガモの飛び立ちを見る会
 12月23日(日) 1月27日(日)
 3月までの毎月第4日曜日
 午後4時半~6時半頃
 スズガモの集まりぐあい等により中止することがありますので 観察舎運尾まで お問い合わせ下さい。

お知らせ
 去る12/17の市川市議会定例会において 友の会会員の興野まきお議員の妙典の区画整理に際しては 友の会より提出されている陳情のとおり、カモの飛来している池やハス田を保存して公園にするようにとの要望に対し、高橋市川市長より「区画整理組合とも相談し、実現できるようにしたい」と旨の答弁がなされました。

12/23には数羽のかもが 5:30PM から 約30分間で飛び出しました。

—事務局より—
 会費の納入を お忘れなく。 一般会員 1000円 賛助会員 2000円以上
 ジュニア会員 (小中高生) 500円です。 観察舎でお金を預かってもらえます。
 その他 絵はがき シール 鳥のマスコット 鳥の図鑑なども販売しています。
 ※85年版野鳥カレンダー 1000円 (会員特価 800円) もあります。

—編集後(慌)記— 妙典の南苑、行徳沖の埋立て(約700ha)も来年から動き出しそうです。しかり足元から自然をみつめ直していきましょう。原稿をおよせ下さい。(はるたか)

○何も云うことはありません。大変遅くおりました...ごめんない。速

すずがも通信 No.29		1984年12月1日発行
振替 仙台2-6129	行徳野鳥観察舎友の会発行 年会費 1000円	
発行人	亀谷 栄	
事務局	鈴木 有方	
編集人	田久保 晴孝	
	新妻 途夫	
行徳野鳥観察舎		市川市福栄4-2-1 1 ☎0473 (97) 9046